

そうなんだ。小田急線の駅は梅ヶ丘なのに、なんで公園の名前は。羽根木町の飛び地だったんだよ。あそこが。それで羽根木。(複数声かぶさり起こし不可) 飛び跳ねる。分かりやすいですね。飛び跳ねる。昔は、そういうの、めっちゃいっぱい。飛び地がいっぱいありましたよね。飛び(*** *ハネルニイ(01:00-29)って聞きましたね

やっぱり撮影所が、東宝にしる日活にしる、多摩川周辺の撮影所がありますよね。そうすると、東京郊外の風景で、ちょっと映画の撮影に向いてる場所っていうと、やっぱりあの辺が選ばれるんじゃないですかね。映画のスタジオが、近くにたくさん。近いってほどじゃないんですけども、世田谷から調布にかけて撮影所のメッカですもんね。ですから、小田急の電車は本当によく出るんですよ。

だから、下町の題材のものが、やっぱり遠征したんでしょうね。下町のほうへね。日暮里とか、あの辺、出てくるんですよ。面白いんですよね。日暮里で住んでる人が、リヤカーで梅ヶ丘の所、来るんですよ。来るわけねえだろっていう。映画の中でそうなってる。そうそう。雰囲気出すため……。場所が寄せ集めよね。

それもそうだし、特に電車の所なんか、電車の知ってる人なんかは、あそこも何線だって、分かるんです。ストーリーと違うとこに……。そうそう。撮影の関係でね。結局、映画観る人は、地名はどこの地名でもいいわけですよ。だから、必ずしも世田谷で撮影しても、世田谷があんまり突出しないようにしてるんじゃないですか。

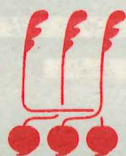
私たちが育つ頃は、まだご婦人が自転車に乗るってことはありませんでしたからね。私の子どもの頃。そうすると、お産婆さんっていうのは、お産があると飛んで行かなきゃならないので、お産婆さんだけは自転車に乗っているのをよく見かけました。でも、着物でしたけど、もんぺ、はいてたか、そんなような格好で自転車乗ってる人は、お産婆さんでしたね。

急がないと生まれちゃうからね。だから、自転車ってば、お産婆さんぐらいしか乗ってませんでしたよね。それはちなみに、いつぐらいの頃ですか。まだ戦時中ですね。戦時中の話。それで、戦後になって、ちょっと自転車、乗りだしましたけど。その頃……。それ、婦人用でしょ？ これは、昭和30……。あそこがこう、三角になってて、

穴アーカイブ: an-archive
せたがやアカカブの会 vol.11 後半
日時: 2017年8月5日(水) 19:00 ~ 19:45
場所: 生活工房ワークショップルームA
参加者: 12名
世話人: 3名

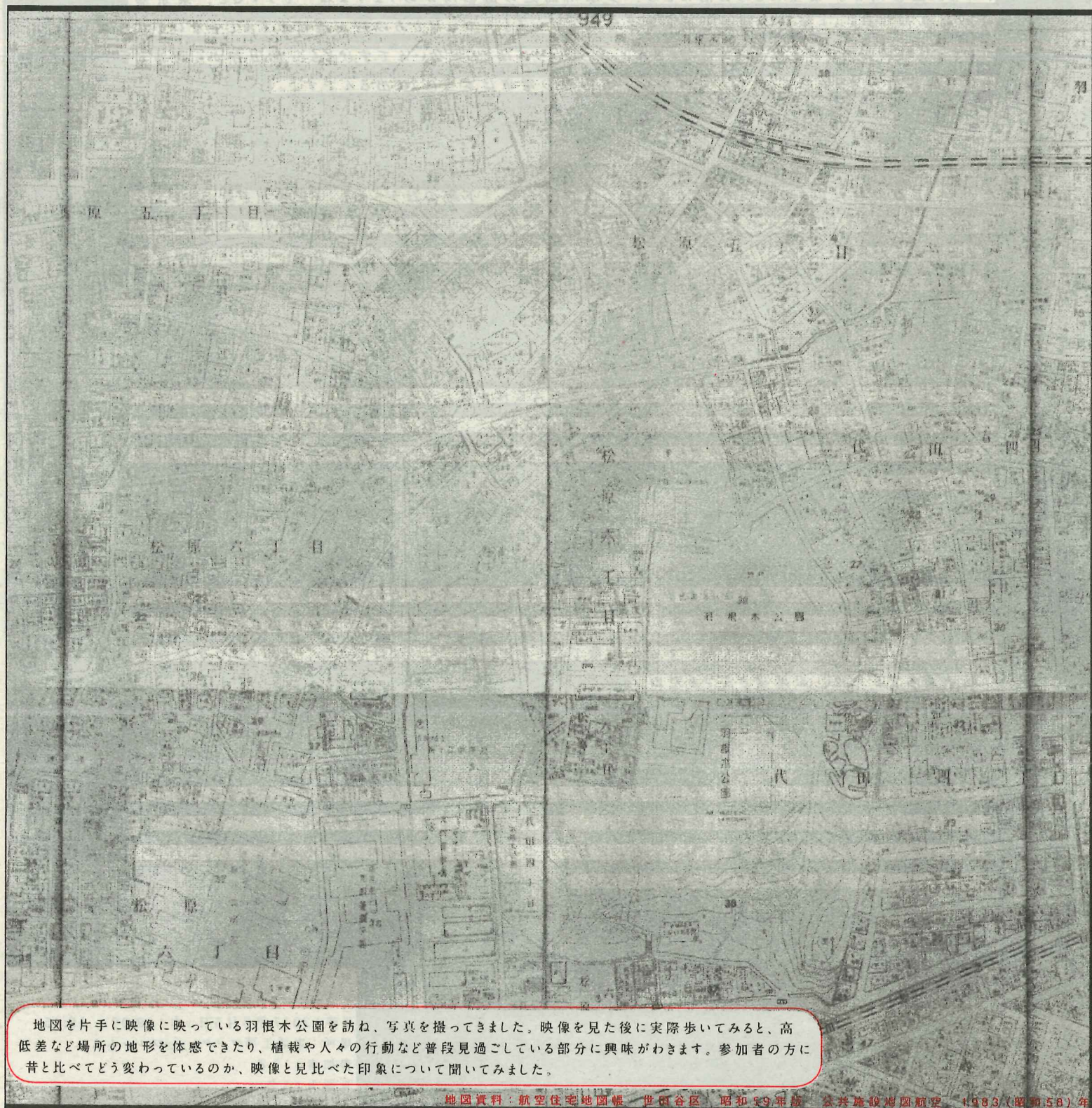
穴アーカイブ：an-archive

記録を残すという営みを、記録が残らないこと、すなわち、記録の不在（穴）から捉え直す反（an）アーカイブ的アーカイブの試み。昭和30～50年代にかけて市販された8ミリフィルムという映像メディアに着目し、世田谷のまち、ひと、暮らしに光をあてる。2015年から始動。



せたがやアカカブの会：The setagaya akakabu circle

穴アーカイブにおいてデジタル化した映像を、じっくり観ながら語り合う小さな集いの場。ほぼ隔月で開催。開催予定、上映内容は、生活工房HPまたはくお問い合わせ>からご確認下さい。一見さん大歓迎。本誌くかぶうずら、やまいもうなぎ>は、当会の断片的・公式活動記録。

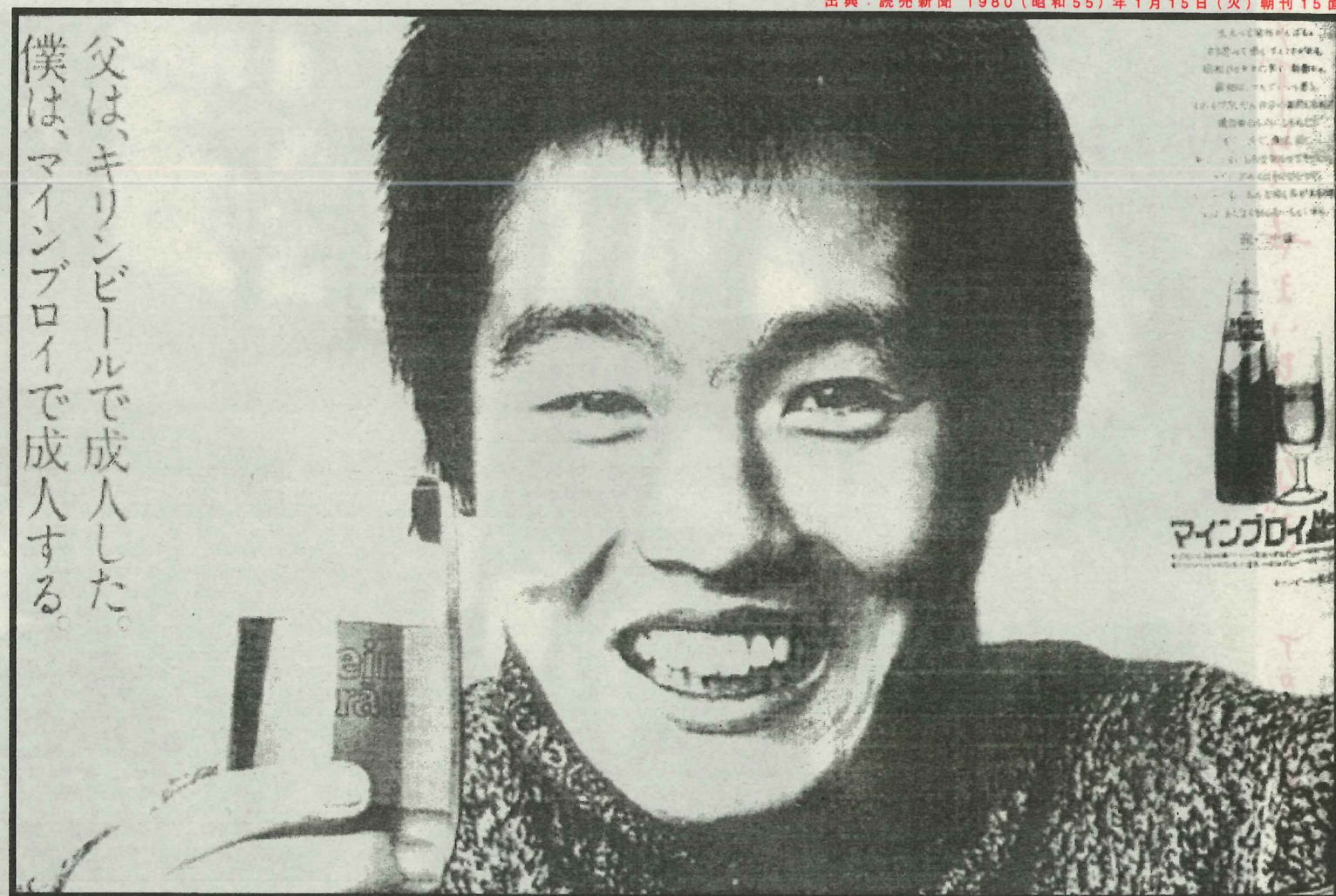


地図を片手に映像に映っている羽根木公園を訪ね、写真を撮ってきました。映像を見た後に実際歩いてみると、高低差など場所の地形を体感できたり、植栽や人々の行動など普段見過ごしている部分に興味ができます。参加者の方に昔と比べてどう変わっているのか、映像と見比べた印象について聞いてみました。

地図資料：航空住宅地図帳 世田谷区 昭和39年版 公共施設地図帳 1983（昭和58）年

いまから37年前の成人の日新聞広告です。当時成人の日は1月15日固定で、この年は159万人が成人式を迎えたそうです。ということで、「二十歳」を意識した広告が目につきます。写真真は「麒麟ビール」強と呼ばれた時代に、ちょっと高級感のあるビールとして売り出された「マインブロイ」の広告です。ところで、この人は誰？

出典：読売新聞 1980（昭和55）年1月15日（火）朝刊15面



かぶうずら、やまいもうなぎ アカカブの会の記録2017 no.4
発行日：2017年10月25日

お問い合わせ：生活工房 03-5432-1543 info@setagaya-ldc.net
編集：せたがやアカカブの会世話人（松本篤、八木寛之、成田海渡、ブルサコワありな）
主催・発行：公益財団法人せたがや文化財団 生活工房
〒154-0004 東京都世田谷区太子堂4-1-1 キャロットタワー
http://www.setagaya-ldc.net/
企画制作：remo [NPO法人記録と表現とメディアのための組織]
後援：世田谷区、世田谷区教育委員会

本誌の無断転写、複製、転載を禁じます。

世田谷文化生活情報センター
生活工房
Lifestyle Design Center